

「失敗」と書いて「成長」と読む

校長 武井 正明

久しぶりにみんなが揃いました。少し長めの春休み、皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。

私は早く学校が始まってほしくて仕方がありませんでした。だからやっと始まったかという感じです。春休みの間、自動車事故や大きな病気などはなかったようです。こうして当たり前の一日が迎えられることは決して簡単な事ではありません。これからも登下校など、特に注意してください。

今日から新たな年度が始まります。

皆さんは新年度のスタートに当たって、君たちと重ね合わせて見てしまう人がいます。それは今シーズンからメジャーリーグに挑戦している、佐々木朗希投手です。

あれだけ活躍した人でも、未知の舞台は押しつぶされそうな緊張感がテレビ画面からも伝わってくるほどでした。

その初登板と2試合目は、全く本来の佐々木投手とはかけ離れたものでした。

そんな自分が許せなかったのでしょうか。その眼は悔し涙で滲んでいるように見えました。

でも、思うのです。

彼は、それでもこの舞台に立ちたかった。そして立った。現状の日本でプレーしていれば、プレッシャーも想定内で一定以上の活躍は十分見込めたでしょう。でも彼は挑戦したかった。失敗も覚悟の上で、彼は海を渡ったのです。こんな若者、素晴らしいじゃないか。

自分はひどく臆病者なので、私はそういう人に、ものすごくあこがれるのです。

だから皆さんも、失敗覚悟でやってみてほしい。中学時代の失敗なんて、失敗のうちに入りません。大人になると、なかなか周囲が失敗を許さなくなったりします。

ぜひ、頑張りたいこと、挑戦したいことがあったら、迷わずに、まずやってみてほしい。そこできつと何かを得るのです。「失敗」と書いて「成長」と読むのです。

この春卒業した吉中の先輩の中に、私にプロゴルファーになると誓った生徒がいます。その眼に覚悟を見ました。厳しい荒海で頑張る彼女を、私はずっと応援します。

そしてもちろん、吉中の皆さんの1学期のスタートダッシュも、私はワクワクドキドキしながら応援させていただきます。みんな可能性の塊です。頑張ってください!!